

令和3年度（2021年度）
社会福祉法人 いなほ福祉会
放課後等デイサービス事業 放デイほたる事業報告書

1. 事業所所在地

三重県南牟婁郡紀宝町井内88
 電話・FAX 0735-30-0367

2. 事業の目的・方針

障害のある学童期の児童（18歳未満）に対して、通園の方法をとり、学校・家庭に次ぐ第3の場として、放課後や長期休みに豊かで充実した日中活動を保障し、友だちと共にする遊びの中で、集団生活を楽しめるよう適切な指導や援助を行い、豊かな育ちを保障します。また家族に対しても保護者が見通しを持った子育てが行えるよう生活上の困難に対する支援を行います。

3. 利用定員と利用実績（令和4年3月末日）

利用定員 10名 利用登録者 20名

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	23	20	24	22	20	22	23	22	23	19	20	24	262日
延利用人数	139	137	167	158	161	157	171	164	181	139	135	150	1859人
1日平均	6.0	6.8	6.9	7.1	8.0	7.1	7.4	7.4	7.8	7.3	6.7	6.2	7.0人

4. 職員体制

職 種	定数	現員
管理者	1名	1名（常勤・兼務）
児童発達支援管理責任者	1名	1名（常勤・専従）
保育士 または児童指導員	2名	5名（1名 常勤・専従） （1名 常勤・兼務） （3名非常勤・専従）
指導員		1名（非常勤・兼務）
送迎運転手		1名（非常勤・兼務）
合 計	4名	7名

5. 営業日及び営業時間及びサービス提供時間

営業日	月曜日から金曜日・第1土曜日・第3土曜日とする。 （ただし、国民の祝日、年末年始・夏期休みを除く）
-----	--

営業時間	学校開校日は、午前9時30分から午後6時まで 学校休校日は、午前8時30分から午後5時まで
サービス提供時間	学校開校日は、午前10時から午後5時まで 学校休校日は、午前9時30分から午後4時まで

6. 今年度の重点方針

＜発達支援＞・・・通所児童への支援

障害を持つ児童に対して通園の方法をとり、学校の放課後や長期休みの日中活動を保障し、日常生活における療育の場を提供し、障害の固定化の予防や、日常生活における基本的動作の習得及び集団生活に対応できるよう適切な指導や援助を行い、豊かな育ちを保障します。また保護者が見通しを持った子育てが行えるよう生活上の困難に対する支援を行います。

＜家族支援＞・・・通所児童の家族に対するの支援

懇談会、学習会を開催し、ライフステージに応じて心身共に変化が大きい子どもを育てる悩み等の相談に応じます。同じ悩みを持つ保護者同士のつながりを作りながら、保護者や家族の障害受容のサポートをします。長期休暇や土曜日に一日活動を行い、保護者が心身共に健全で前向きに子育てできるよう、保護者自身が自分の時間を持てるように保障します。

① 新たな職員集団で、保育・療育活動の向上に努めます

管理者の異動と、職員の退職に伴い職員集団が大きく変わりましたので、新しい管理者の下、1つ1つの事象について、どう考えるか・どう判断するかを話し合い、同じ方向性に関わることに時間を割いてきました。また、実践内容や環境設定についても必要な手立てを打つことで、実践内容の見直しや部屋のスペースの有効活用に繋がり、今後のほたるの方向性を見出すことができた1年となりました。

② 職員の専門性の向上に努めます

計画的な法人研修と児童分野の研修を通して、福祉職員および児童分野職員としての専門性の向上に努めました。

また実践での悩みを、公認心理師や関係機関の相談員の方に相談して専門的なアドバイスを頂いたり、必要なケース検討会や研修会を実施したりすることで、その都度実践を見直すことができ、職員の専門性の向上に繋がりました。

③ 安定して子どもの受け入れができる体制を作ります。

登録児の利用日数について基本のルールを定め、年度替わりに利用日数を見直すことで、必要な子どもに必要なサービスが提供でき、また新規の利用希望児にも対応できるよう努めました。

また長期休暇時には、キャンセル待ち制度を取り入れ、子どもの休みがあった場合にはキャンセル待ちのご家庭に連絡を入れて利用して頂く取り組みをしました。その結果、週2日の利用しかできない小学校低学年の子どもが週3日以上利用することに繋がり、

保護者の方からも「利用日数が増えて良かった」との声を頂きました。

④ 土曜日の開所を模索します

土曜日は、現在第1・3土曜日のみ開所していますが、第1・3土曜日とも利用人数が大変少なく、他の土曜日の開所というよりは現在開所している土曜日を充実させる取り組みをしました。その結果、令和3年度中に2名の利用が増えました。

⑤ 紀宝町外までの送迎を見据えていく

令和3年度中に御浜町への帰りの送迎を開始できるよう検討しましたが、利用している保護者のニーズとほたるで対応できる場所等を検討した結果、紀宝町内に1か所停車場を作るにとどまりました。今後は御浜町まで送迎を広げる方向で進めていきます。

⑥ 保護者集団を形成します

放デイほたるの活動報告とご家族の近況報告をする保護者懇談会を2回開催しました。昨年度よりも参加人数が増え好評でしたので、もう1回懇親会を開催する方向で検討していましたが、新型コロナウイルスの関係で中止となりました。

懇談会の中の意見から、子どもの将来への不安を抱いているご家族が多いとわかりましたので、社会人の先輩の話聞く、成人の施設職員の話聞くなどの学習会を今後開催していきたいと考えています。

《保護者懇談会開催実績》

日 程	内 容	保護者	職員
6月19日 24日	春休みの活動報告・座談会	11名	3名
10月2日 8日	夏休みの活動報告・座談会	10名	3名

<地域支援> ・ 関係機関や相談支援専門員との連携

⑦ 利用児童が通う学校や、関係する事業所、相談支援専門員との連携を図ります

関係機関との連絡を密にし、子どもの置かれている状況や困難さについて情報共有し、よりよいサポートができるよう連携を図りました。

特にくろしお学園とは、何度か担当者会議を通して連携を図ることができ、学校とほたるの取り組みを共有することができました。地域の学校との連携は思うように進まなかったため、今後の検討課題であると考えています。

《関係機関とのケース会議等》

ケース検討会議・モニタリング会議	計8回
放デイ交流会	計3回

⑧ 地域の課題にも目を向けていきます

子ども達が将来にわたって、のびのびと地域で豊かな生活ができるよう、自立支援協議会の発達支援部会に所属して、地域の課題にも目を向け関係者と共に協同しました。今年度は、福祉職員の魅力についてアピールするパンフレットの作成や、放デイの3事業所の子ども達が一堂に集まって遊ぶ機会を作るなどの取り組みをしました。これまで

以上に放デイ事業所間での連携が密になっており、それぞれの事業所の取り組みの理解にも繋がっています。

7. 利用者への福祉サービス

(1) 日課

【放課後活動】

宿題→おやつ→活動（散歩・買い物・公園遊び・クッキング・制作・公共機関でのおでかけ・季節の行事等）→掃除→おわりの会

【長期休暇活動】

宿題・自由遊び→はじまりの会→活動→給食または弁当→活動→おやつ→掃除・おわりの会（活動は、散歩・買い物・公園遊び・クッキング・制作・公共機関へのおでかけ・季節の行事の他）

今年度はコロナ禍の為、公共機関や人が多く集まる場所での活動を控えています。変わりに密を避け、地域の公民館や自然豊かな場所での活動を多く楽しみました。

《日課》

(開校日)

(休業日)

時間	活動	時間	活動
10:00	打ち合わせ・準備	9:00～	送迎
13:00～	学校へ迎え 宿題 活動	10:00～	午前の活動
		12:00～	給食または弁当
		13:00～	午後の活動
16:45～	掃除・おわりの会	15:45～	掃除・おわりの会
17:00	終了	16:00	終了
17:00～	送迎又は保護者迎え	16:00～	送迎又は保護者迎え

(2) 保育・療育支援

ゆったりとした中にも、散歩・クッキング・買い物・集団ゲーム・絵画等、目的をもったメリハリのある活動で、年齢にあった活動を行いました。

(3) 懇談会の開催

様々な状況のご家族が参加しやすいように、2回の保護者懇談会どちらとも昼の部・夜の部を企画して保護者懇談会を行いました。

また保護者の悩みやほたるでの様子について保護者の方と話をする機会を作るために、希望者全員の個人懇談を実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大から令和4年度に延期したご家族もいましたが、今後も個人懇談については継続して取り組みます。

(4) その他必要な援助

地域連携

地域のケース検討会議に資料を提出して出席し、子どもの情報共有に努めました。

送迎サービス

和歌山県新宮市から、三重県紀宝町内の範囲で送迎サービスを行いました。

《送迎サービス実績》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	246	253	162	284	161	157	171	164	181	139	135	150	2203人

おやつサービス

一食につき50円（買い物の時は100円）を負担して頂きました。

給食サービス

一食につき300円を負担して頂きました。

8. 諸記録の整備

保育日誌・ケース記録・サービス提供記録・モニタリング・個別支援計画・避難訓練記録・研修記録・会議議事録等放課後等デイサービス事業に必要な書類の整備を行いました。

9. 利用者・家族のプライバシーの確保

人権擁護の立場から個人のプライバシーの保護並びに配慮を徹底しました。

職員は正当な理由なく、その業務上知り得た利用者及び家族の秘密を第三者に漏らしてはならない。更に職員の退職後もこれらの秘密を保持すべき旨を、職員との雇用契約に明記するなど必要な措置を講じました。

10. 非常災害対策（安全管理）

天災及びその他の災害が発生した場合、職員は利用児の避難等適切な措置を講じます。また、防火責任者は、非常災害に関する具体的な計画を立て、職員に周知徹底をはかるとともに、避難経路及び協力機関等との連携方法を確認し、災害時には、避難等の指揮をとれるよう訓練しました。又非常災害に備えるため、避難、救出その他必要な訓練を定期的に行いました。

- ・避難訓練の実施（1年に12回）
- ・消防設備自主点検（1年に12回）
- ・防犯訓練（1年に1回）
- ・救命救急講習（1年に1回）

11. 虐待防止・人権擁護のための措置

利用者の人権擁護・虐待防止等に対応するため、責任者及び推進委員の配置、相談窓口の設置等虐待防止体制の整備、職員に対する研修その他の必要な措置を講じました。

また毎月、虐待チェックリストを全職員交代で記入し、虐待防止と人権擁護の意識の向上と自己確認を行いました。

虐待防止責任者 _____ 下口 公未佳 _____

虐待防止担当者（受付） 寺地 有未 _____

《虐待防止・人権擁護法人全体研修》

法人全体で実施しました。

5月29日(土)	虐待防止・人権擁護研修	参加者5名
----------	-------------	-------

1.2. 苦情解決のための措置

利用者家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するため、相談窓口の設置その他の必要な措置を講じました。

苦情解決責任者 下口 公未佳

苦情解決担当者(受付) 寺地 有未

第三者委員 紀宝町役場 福祉課 課長 Tel0735-33-0339

第三者委員 紀宝町社会福祉協議会 事務局長 Tel0735-32-0957

《苦情解決実績報告》

受付日	申出人	苦情内容	解決方法
		特にありませんでした	

1.3. 職員(援助者)の援助技術の向上

(1) 職員会議の実施(月1回)

個別支援会議(随時)

《職員会議の実績》

内容	回数
職員会議	13回
モニタリング会議	10回
個別支援会議	17回
保育総括会議	2回
保育の打ち合わせと反省	毎日

(2) 研修の実施

- ・研修計画の策定

- ・各種研修会への参加

発達や障害についての理解等、各職員に必要な研修会を選択して参加しました。

- ・各々の職員の目標設定並びに人事考課を実施しました。

《職員研修の実績》

☆内部研修

日程	主催	研修内容	講師	参加人数
5月13日	放デイほたる	子どもが荒れた時の対応法	谷中 達夫	5名
5月29日	いなほ福祉会	虐待防止・人権擁護伝達研修 いなほ福祉会の実践報告	法人職員	5名
6月5日	放デイほたる	ケース検討会	堀口 佳子 (れんげの相談員)	3名
6月22日	放デイほたる	救命救急講習会	消防紀宝分署職員	5名
7月31日	いなほ福祉会	成人分野の取り組み 発達の学習会①	法人職員 田尻 直樹	3名

10月30日	いなほ福祉会	児童分野の取り組み 発達学習会②	法人職員 田尻 直樹	3名
11月30日	放デイほたる	「困った行動」にどう対応するか	榎 みお	4名
12月14日	放デイほたる	「困った行動」にどう対応するか	榎 みお	4名

★外部研修

日程	主催	研修内容	講師	参加人数
6月20日	発達保障研究センター	発達入門コース 第1回	高田 智行 (大津市発達相談員)	1名
7月18日	発達保障研究センター	発達入門コース 第2回	高田 智行 (大津市発達相談員)	1名
8月22日	発達保障研究センター	発達入門コース 第3回	高田 智行 (大津市発達相談員)	1名
9月25日 26日	S.E.N.S 養成 セミナー	学校・園における支援体制 I 保護者とのかかわりと連携		1名
9月26日	発達保障研究センター	発達入門コース 第4回	高田 智行 (大津市発達相談員)	1名
9月29日 10月14日 11月18日 12月22日	三重県社協	三重県相談支援従事者現任 研修	三重県社協職員他	1名
10月 1日	三重済美学院	発達が気になる子に対する 見方を変えて味方になろう	安倍 利彦先生 (星槎大学)	6名
10月17日	発達保障研究センター	発達入門コース 第5回	高田 智行 (大津市発達相談員)	1名
10月23日 24日	S.E.N.S 養成 セミナー	聞く・話すの指導 特別支援教育概論Ⅱ		1名
10月24日	三重大学小児トータルケアセンター	三重県小児在宅研究会	米川 貴博医師 白石 弘樹 PT 阪 実穂看護師	1名
10月30日	和歌山県障害児 保育運動連絡会	子どもの可愛さに出会う保 育・療育	近藤 直子先生 日本福祉大学名誉教授	2名
11月12日	あしすと・カラーズ	成人の発達障害について	堀口 佳子 (れんげ相談員)	1名
11月27日 28日	S.E.N.S 養成 セミナー	アセスメントの総合的解釈 読む・書くの指導		1名
11月25日	日本認知・行動療法 学会	高機能自閉症スペクトラム症に対するCBTワークショップ 子どもの問題行動に対する認知行動療法	大島 郁葉 高橋 史	1名
12月 2日	和歌山県社協	アサーティブコミュニケー ション	堀部 三智子 (アサーティブジャパン)	1名

12月3日	発達支援部会	発達障がいの理解と支援	西田 寿美医師 (ライフステージ・サポートみえ)	1名
12月7日	和歌山県社協	職場研修担当職員研修	濱田 智司 (紀の州コンサルティング)	1名
2月20日	みえる輪ネット	みえる輪ネット研修会		1名
3月11日	発達支援部会	様々な精神障害を抱えた保護者の理解と対応 -子ども・家庭支援の立場から-	志村浩二先生	4名

14. 事務・財務管理

- (1) 会計処理の適正化をはかりました
小口は、毎週水曜日に事務センター職員が来所し処理を行いました。
- (2) 請求事務の効率化・適正化をはかりました
ほのぼののシステムを導入し、基本情報の登録、受給者証の入力、出席の管理は放デイほたるで行い、請求は事務センターで行いました。
- (3) 経費の省力化をはかりました
節電や消耗備品の経費の削減に努めました。

15. その他の業務

- (1) 発達支援部会へ参加し、地域の障害児がおかれている状況を把握し、課題に取り組んできました。
- (2) 地域の啓発活動（地域住民の障害への理解の促進）に努めました。
活動を通して様々な地域住民と触れ合い、啓発活動に取り組みました。
- (3) 地域との協力を努めました。
事業所周りのごみの清掃や草刈り等を行い、また地域の避難訓練に参加する等地域との協力を努めました。

資料《主な行事》

日 程	内 容
8月 7日	中高校生の取り組み
8月12日～ 8月15日	夏期休暇
12月20日	中高生クリスマス会
12月23日	小学生クリスマス会
12月30日～ 1月 4日	冬期休暇
3月19日	卒業おめでとう会